

第36回日本皮膚外科学会総会・学術集会 第39回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会 The 6th Asian Congress of Dermatologic Surgery 合同学術大会を終えて

(2021年5月29・30日)

※かごしま県民交流センターとWeb配信のハイブリッド開催

松下 茂人

国立病院機構鹿児島医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科部長

はじめに

2021年5月29・30日に、第36回日本皮膚外科学会総会・学術集会、第39回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会、ならびにThe 6th Asian Congress of Dermatologic Surgery (ACDS2021)を合同開催させていただきました。日本皮膚外科学会学術集会と日本臨床皮膚外科学会学術大会の合同開催としては大原國章先生が主宰されて以来2回目、2011年から2年に1回、東アジア4カ国(日本、中国、韓国、台湾)で開催していたEast Asian Dermatologic Surgery Conference改めACDSとの合同開催としては初めてでした。開催にあたりましては、埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科の中村泰大先生、東海大学医学部外科学系形成外科学の河野太郎先生に副会長として支えていただきまして、診療科・専門領域横断的にオールジャパンで臨むことができました。開催形式は新型コロナウイルス感染症の流行を取り巻く状況に鑑み、ハイブリッド開催(現地とオンライン)としました。鹿児島にお越しになれずオンライン参加となられた方に鹿児島を少しでも堪能していただくために、Webエントランスサイト(図1)に鹿児島に関するYouTube動画を数多

くリンクさせて学術大会以外でも楽しんでいただけるように工夫しました。

匠の継承 創造する未来 Inherit TAKUMI, Create the Future

本会のテーマは「匠の継承 創造する未来 Inherit TAKUMI, Create the Future」としました(図2)。皮膚疾患の診断学に基づいた手術治療学である皮膚外科学の日本からアジアでの発展は、日本国内における志を同じくした医師たちのためまね修練とともに、形態解剖学を礎とする形成外科学との融合



図1 Web エントランスサイト

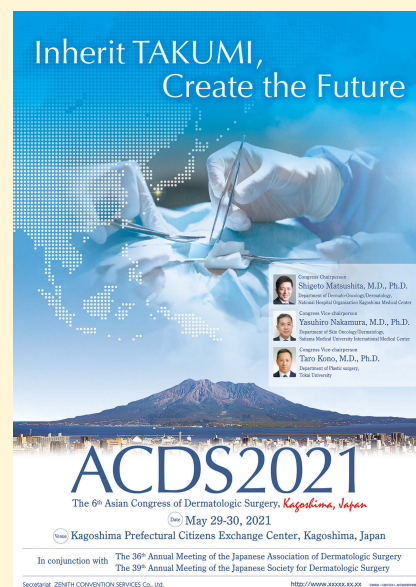


図2 合同学術大会ポスター

によってなされてきました。そこで培われてきた匠の英知と技を継承し、新たなステージへと進化させて、国際的に活躍する次世代を担う医療者を連綿と育成することは学会の使命でもあります。本会が、匠を享受して未来を創造する若い医療者の可能性が広がる場となるようさまざまな企画を準備しました。

ACDS2021 企画

ACDS2021企画としては、SymposiumとSpecial lecture, Panel discussion, そして公募制のInternational plenary sessionを催しました。SymposiumではLarge to Giant Congenital Melanocytic Nevi, 皮膚がん(melanoma, BCC, EMPD), 美容治療のトラブルシューティング(しわ・たるみ治療, レーザー治療)をテーマとしてアジアのご高名な諸先生のご講演を賜り、Special lectureでは唐津赤十字病院・明石道昭先生にメディカルイラストレーションのご講演, 中国中南大学皮膚科教授のChen Xiang先生にアジアでのメディカルコラボレーションについてのご講演を賜りました。Panel discussionでは、日本・中国・韓国・台湾・インドネシアのパネリストが集い、皮膚外科・皮膚がん領域でのアジアでのガイドラインやエビデンス創出を目指した具体的なロードマップや、皮膚外科領域での教育や育成などについて活発に意見が交わされました。International plenary sessionでは、国内外か

ら応募のあった17演題から選りすぐられた8演題の素晴らしい発表があり、若い医療者が国際学会において研究成果を英語で発表する絶好の機会となりました。

特別企画 (ハンズオンセミナー)

本学術大会では、皮膚外科学に普遍的に求められる「みえている“つもり”を的確にみて表現する」きっかけとしていただきたく、Special lectureを賜りました明石道昭先生によるハンズオンセミナー「メディカルイラストレーションセミナー」や、メディカルループを装着して行う皮膚外科手技のウエットラボ「さつま皮膚外科塾」を同時開催しまして、いずれの企画も非常に盛況となりました。

おわりに

本学術大会は、残念ながらハイブリッド開催とはなりましたが国内外より482名のご参加をいただき、学術的な交流とともにアジアからのガイドライン創出をはじめとした新たなミッションを共有することができた、実り多いものとなりました。ご参加いただきました皆様や学会運営関係各位に心より御礼申し上げますとともに、ご賛助いただきました各位より格段のご高配を賜りましたことに心より感謝申し上げます(図3)。



図3 閉会式後の集合写真